オリーブ便り Olive News

2018.03.01 No.405

香川大学 医学部附属病院　香川県木田郡三木町池戸1750-1　発行人／病院長　横見瀬 裕保

定年を前に感謝を込めて

看護部　看護師長　大畑 幸子

昭和58年、病院開設を機に川崎医大より香川へ戻ってまいりました。新築の病棟で第1号の入院患者を2名の看護師で夜勤した日が懐かしく想い出されます。あれから34年、病院は再び衣替えし、若い人達を迎えようとしています。

2年前、外来に異動してまいりました。丁度、外来再開発がスタートする時であり、小さなプロット図を眺める毎日が続きました。変えるべきものと否もの、手すり1本の長さ高さ迄、何度も計測し仮設･本設移転を繰り返してきました。無理を通し、壁を50㎝移動して頂いたおかげで膀胱鏡がし易くなりました。再び無理を通し、高水準消毒剤の人体暴露予防に洗浄室も設けて頂きました。この先30年の未来まで現場で働く人達の利便性と安全担保が職務であり職責と受け止めています。施設課の皆様には何度も何時間も現場の声に耳を傾けて頂き予算のない中、奔走して下さいました事を本当に感謝しております。

厚労省は2025年を目途に地域包括ケアシステムを推進しています。既に外来でも医療依存度の高い患者が増え、がん告知後の入院は常となっております。在宅療養患者皆様の「生活の質」「人生の質」「いのちの質」が少しでも豊かになる看護を、今後の若い人材の未来に託していきたいと思います。

長きに渡りご指導下さいました皆様に、心より感謝申し上げます。

定年を迎えて

看護部　看護師長　尾上 初恵

昭和58年10月の病院開設時から34年間お世話になり、平成30年3月末で定年を迎えることになりました。これまで、看護師の仕事を通して出会った患者さんをはじめすべての方々、職場の皆さまに深くお礼申し上げます。春一番の便りを聞くこの頃は、いつも背中を見せてくれていた先輩や一緒に力を合わせてきた同僚が職場を離れていくことへの寂しさを感じつつ、看護師長ならではの思いを募らせる時季です。4月にはどんな新人が来てくれるだろうか、この看護チームを気に入ってくれるだろうかという期待と不安。前年に入職した新人ナースが2年目ナースに成長し、ここでの勤務を続けてくれるという喜び。一人ひとりのナースが経験という宝物を得てより大きくたくましく成長していく姿を見ることができるうれしさ。そして、一人ひとりのナースの成長は看護チームとしての成長に繋がり、良質･安全な医療に貢献できるという確信。看護師長として18年間、毎年繰り返された思いです。「患者さんは先生です。」学生時代の恩師の言葉ですが、私自身を含めて一人ひとりのナースを叱咤激励し成長を導いて下さるのは患者さんです。県内唯一の大学病院として患者さんの期待に応えられるように今後も応援をお願いします。最後に、オリーブ便りへの原稿執筆を通して38年間の看護師としての人生を思い返す機会を与えて下さったことに感謝し、当院のますますの発展と皆様のご健勝をお祈りします。

瀬戸内圏研究センターとJICAによる課題別研修「妊産婦の健康改善」の附属病院での研修受け入れ

小児科　教授　日下　隆

10月23、24日の期間に、「妊産婦の健康改善」研修事業として、アジア・アフリカ・オセアニアの国々（ラオス、ミャンマー、東ティモール、バングラデシュ、アフガニスタン、モルディブ、フィジー、サモア、キリバス、ウガンダ、ケニアの11か国）から、政府や自治体関係者18名を受入れ、妊婦や新生児医療に関する講義や病院見学が行われました。本事業は、香川大学瀬戸内圏研究センターと国際協力機構四国支部（JICA四国）の共同事業によるもので、自国の地域における妊産婦の健康改善を目指した「継続ケア」を強化するため、妊産婦と新生児の死亡率が世界で最も低い香川県の、香川遠隔医療ネットワークK-MIXや遠隔妊産婦ケアなどの取組について、理解を深めてもらうことを目的としています。

その成果として、（1）自国の地域における「妊産婦の健康改善」に関する課題と現状が整理される。（2）妊産婦の健康改善のため「継続ケア」のあり方について理解を深める。質の高いケアの提供や地域と保健サービスをつなぐための経験と方策を考慮する。（3）自国の地域の取組みを踏まえた上での「活動計画（案）」を作成する。等が期待されています。

東京、岩手、香川での約1ヶ月にわたる研修の終わりには、各国研修員が、研究成果をもとに、それぞれの国の実情を踏まえた妊産婦の健康改善計画（アクションプラン）を立案し、発表を行いました。11月1日の発表会では、日本の妊産婦ケアシステムをどのように自国に取り入れ、活用していくかについて、活発な意見交換が行われました。

帰国後、参加した研修員が今回の研修で学んだことを自国での、さらなる妊産婦の健康改善や、日本との協力関係の確立に活用される事を期待しています。

「101歳女性心臓手術成功し、無事独歩で退院」

心臓血管センター

生来健康な女性で101歳まで入院をしたことがなく、家族で穏やかに過ごされていました。2017年4月に急性心筋梗塞を発症し、前医に入院されました。冠動脈カテーテル治療で救命できましたが、虚血性僧帽弁閉鎖不全症を併発しました。僧帽弁閉鎖不全症とは左心房と左心室の間にある弁の機能が破綻して逆流する弁膜症という病気であり、心不全を繰り返したため当院へ手術依頼がありました。特に高齢者の場合、体力的な問題や合併症などリスクが高くなり、誰もが必ずしも手術をすることで良くなるわけではありません。心臓血管外科、循環器内科を中心に慎重に検討を重ねた上で手術に耐えうると判断しました。またご本人様は「良くなる方法があるのであれば手術を希望したい」と強い意思があり、僧帽弁置換術と左心耳閉鎖術を行いました。術後2ヶ月のリハビリを経て無事に独歩退院することができました。

心不全の患者は増加の一途を辿り、心不全パンデミックが近いとされています。それに伴い高齢者の心臓病の患者も増加しています。一方で高齢を理由で治療を躊躇されている患者様も多いと思われます。100歳を超える患者の心臓弁膜症の手術は当院では初めてのことであったものの、無事に退院されたことは、御本人の前向きな姿勢に後押しされながらも私たちにとっても非常に勇気づけられる出来事でした。私たちは多職種が協力して病院一体となって循環器疾患に取り組んでいます。今後は地域全体が一体となって心不全診療に取り組んでいけるよう、日々邁進していきたいと考えています。

術中MRI、PET検査、ナビゲーションシステムによる最新の脳腫瘍治療

脳神経外科　准教授　三宅 啓介

治療が難しいと考えられる脳腫瘍、治療法の向上により延命できるようになるなど実臨床に応用できる研究も進められている。今回、香川大学医学部脳神経外科で行っている術中MRI、PET検査、ナビゲーションシステムを応用した最新の脳腫瘍治療について、報告する。

まず、脳腫瘍の種類は、世界保健機関（WHO）の分類で150以上にのぼり、種類や発生部位により症状は異なり、治療法も様々である。年間10万人に10人の割合で発症するとされ、県内でも年間100人以上の患者さんが出ることになる。

脳腫瘍の患者さんによく言われる症状は、朝起きた際の頭痛や嘔気であるが、手足のしびれや動かしにくさ、言葉のもつれやけいれん発作といった症状にも注意が必要である。

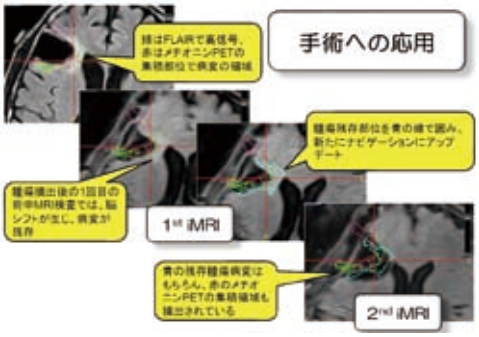
脳腫瘍の中でも特に多い腫瘍は2種類であり、脳の中から発生する「神経膠腫」と脳を覆う髄膜から発生する「髄膜腫」により患者さんの5割以上を占める。髄膜腫になる患者さんは、比較的高齢の女性の方に多いとされるが、神経膠腫は若い方にも患う可能性がある。ただし、脳腫瘍には多数の遺伝子異常が認められ、遺伝子の異常により脳腫瘍が生じると考えられているが、これらの遺伝子異常がなぜ生じるのかは、いまだに不明のままである。

一般の方が考えられるように、確かに脳腫瘍の治療は難しいのが現状である。しかし、薬剤の発達や医療機器の発達などにより脳腫瘍の中で最も悪性度の高い腫瘍も10年前は余命1年といわれていた状況が、抗がん剤の開発により1年2か月と延長し、最近の当院での治療成績は、平均2年弱まで延長している。中には、5年、6年、さらに10年以上、再発なく経過されている患者さんもおり、今後の治療の研究によっては更に生存期間が延びると期待している。

当院でも国内有数の最先端医療機器を導入し、脳腫瘍の診断に使用している。特に2003年から腫瘍の糖を中心としたエネルギー代謝を把握する薬剤を使ったPET（陽電子放射断層撮影）検査を開始し、現在、脳腫瘍に対してはアミノ酸、核酸、低酸素などさまざまな代謝を把握できるPET用放射線薬剤を使用し、診断、治療計画、治療効果判定、予後に活用している。

2016年1月より当院では手術棟新築に伴い、四国4県で初となる術中MRI装置を導入した。術中MRI装置とは、脳腫瘍摘出において、予定していた腫瘍摘出範囲が適切に切除されたかを確認できる検査であり、もしも予定の範囲より摘出できていないのであれば、術中MRI検査の情報をナビゲーションにアップデートさせ、さらに追加切除を行い、腫瘍摘出度を向上することが可能である。なぜ、予定していた腫瘍切除範囲が摘出できないのか、その理由はさまざま考えられるが、やはり脳という特殊な臓器による影響が関与している。脳内の腫瘍を摘出するためには、まず硬膜やくも膜を切除しなければならない。それにより髄液が流出し、脳の変形が始まり病変の位置情報が変わってしまう。ナビゲーションは術前に検査した情報をもとに位置を確認しているため、腫瘍摘出が進むにつれ位置の正確さに欠けてしまう。そのため、手術中に病変の位置情報を再確認できる術中MRI検査は大変有用な検査といえる。

我々は、術前の複数PET検査のそれぞれの集積範囲と術中MRI検査にて得られた画像とを融合し、術中MRI検査にて残存部位が、どのPETトレーサに集積するのか、集積範囲がどの程度かなどを評価し、さらにこの残存部位を安全に且つ可能な限り摘出することにより、腫瘍摘出率の向上、脳腫瘍の無増殖期間の延長、正常脳の機能温存などを目標としている。術中MRIシステムは、手術支援機器の1つではあるが、脳腫瘍治療の向上を期待されるシステムであり、省スペース型1ルーム方式の簡便さを生かして脳腫瘍患者さんの予後改善に貢献したいと考えています。



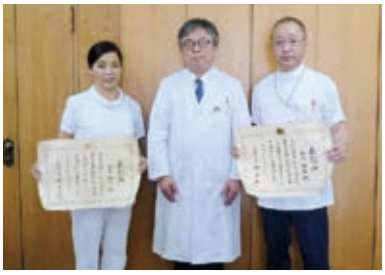
※第28回イキイキさぬき健康塾（平成29年9月10日開催）の講演内容を要約したものです。

平成29年度医学教育等関係業務功労者の表彰について

職員係

平成29年度医学教育等関係業務功労者として、放射線部の「勢川　博雄」氏及び看護部の「西峯　純子」氏が、文部科学省から表彰されました。

これは、勢川氏が診療放射線業務に関し、西峯氏が看護関係業務に関し顕著な功労があったことにより表彰されるものです。この受賞を受けて、2月7日（水）に、横見瀬病院長に受賞報告がありました。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿･血液等の検査試料、生検組織（内視鏡検査で検査のために採取した組織等）又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思いますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究（研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究）に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究（過去の事象について調査する研究）の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL　http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/

イベントカレンダー H30.3～4月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
3/8 木	14:00～15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:一日に何をどれだけ食べたらいいの? 医師:未定	臨床栄養部	(087)891-2066
3/11 日	11:00～12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾ー香川大学病院と最新医療ー 「おなかがいたいよ～!!　お子さんがそんな時どうする?」	総務課	(087)891-2008
3/15 木	14:00～16:00	西1階カンファレンスルーム	がん患者サロン「お口の中のトラブルを予防しよう! ー一般的なものから治療による副作用までー」	がん相談支援センター	(087)891-2473
3/22 木	14:00～15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】管理栄養士:食べ過ぎない!飲み過ぎない! 薬剤師:糖尿病のお薬について	臨床栄養部	(087)891-2066
4/8 日	11:00～12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾ー香川大学病院と最新医療ー 「卵巣がんの診療と最近の話題」	総務課	(087)891-2008
4/20 金	17:00～19:00	JRホテルクレメント高松	第62回　日本皮膚科学会香川地方会	皮膚科	(087)891-2162

イキイキさぬき健康塾

香川大学医学部附属病院　医療セミナー

高松市内で定期的に開催している医療セミナー「イキイキさぬき健康塾」がケーブルメディア四国のコミュニティチャンネルで放送中です。実際にセミナーにご参加いただいた方の振り返りに、セミナー当日に参加できなかった方に、医療セミナーに興味のある方に、皆様ぜひご覧ください。

編集委員会（50音順）
荒井（検査）、石井（外来）、小野（総務）、日下（副病院長）、笹川（放射線）、田川（管理）、田中（看護）、藤原（病棟）、芳地（薬剤）、横井（情報）、横山（経営）、吉野（医事）　〔委員長 横見瀬病院長〕

※この用紙は自然保護のため再生紙を使用しています。